苦しみ

今回の展示会で気になる作品があった。昨年も同じような作品だったと思う。同じ支部に属する方に、どんな方なんですかと尋ねたら、この方は家族が大変だそうで、苦労されたようです。昨年は”もう聞きたくない”と座り込んで、耳をふさぎ、暗い部屋で泥と血でまみれた雰囲気で描かれておりました。こんな苦しみと地獄のような絵に私は衝撃を受けました。できるならこんな絵は描きたくない。ムンクの”叫び”の作品も、家族の病の看護疲れで顔をゆがめて苦しみを表現しているように感じられます。人それぞれにいろんな苦しみがあります。それを乗り越えようとしてもがき、生活しているのではないでしょうか。この作者は早く乗り越えほしいと願うばかりです。そうすれば一皮むけて作品は飛躍されるでしょう。ただ、もう一つのとらえ方は、作者は自己をとことん追い詰め対峙して、それを作品として、表現しているのではないかとも推測されます。しかし、それだとしても、何か月も苦しみと対峙することは耐え難く大変なことです。